

2004 年度 C&C 賞表彰式典開催される

2004 C&C Prize Recipients are honored

(財)C&C 振興財団（理事長・佐々木元 NEC 代表取締役会長）は、NEC からの基金により、1985 年 3 月に設立されました。本財団は、情報処理技術と通信技術の融合する C&C（Computers and Communications）分野における開拓活動、研究活動に対する奨励および助成を通じて、科学技術の振興を図り、もって人々の相互理解を深め、1 人ひとりの能力を十分に発揮できる豊かな文明の創造に寄与することを目的として活動しています。

本財団は上記の目的を達成するために、①顕彰事業（C&C 賞の贈呈）、②研究助成事業（国際会議論文発表者助成・外国人研究員助成・若手研究員助成）、③調査研究事業を行っています。このうち、顕彰事業は、本年度で 20 回目を迎え、去る 2005 年 1 月 26 日にホテルオークラにおいて、2004 年度 C&C 賞表彰式典が行われました。今回の表彰では C&C 分野の開拓または研究に多大な貢献をされた 2 グループ 3 名の方々が受賞されました。

グループ A は、元東北大学教授、元岩崎通信機株常務取締役の喜安善市博士による「電子回路・情報通信に関する基礎理論の先駆的研究と著作、および PCM 通信・誤り訂正符号・電子計算機・電子交換機などシステムの開発実用化を通じての指導的貢献」に対するものです。博士は日本の電子・通信・情報工学の草創期において回路網・フィードバック・パルス通信・PCM 変調による録音機・日本で初めてのパラメترون計算機 MUSASINO-I の開発・磁気記憶装置の開発を行い、計算機産業の自立を促しました。さらに電子交換機の試作を行い、将来電子計算機は通信と結びつくことを確信しました。また教科書として広く使われ

た多くの著書を著し、多くの研究者・技術者を育成しました。常に先駆者として新しい道を切り開き情報と通信の融合の将来を確信し、あとに続く人材を育成した博士の先駆的かつ指導的貢献が高く評価されました。

グループ B は、スタンフォード大学学長、電子工学科およびコンピュータサイエンス学科 ジョン L. ヘネシー教授、およびカリフォルニア大学バークレー校電気工学およびコンピュータサイエンス学科 デービッド A. パターソン教授による「コンピュータ・アーキテクチャに関する創造的発想を呼ぶテキストの著作、先駆的研究および企業活動によるコンピュータ科学技術の開発とその産業発展に対する顕著な貢献」に対するものです。お 2 人はコンピュータ・アーキテクチャの進展に大きな貢献があり、今回その業績が高く評価されました。特に RISC アーキテクチャは John Cocke 博士（1994 年 C&C 賞受賞者）による発明に続き、その LSI 化を行い、産業化に尽くしました。その成果は MIPS、SPARC RISC チップとして世界のワークステーションを席巻し、さらに埋め込み型プロセッサとしてゲーム機・端末・通信機器などに広く使われました。お 2 人共著の著書は世界中で教科書として広く使われ、お 2 人の人材育成への貢献は顕著です。またパターソン教授はさらに RAID 方式によりディスク記憶システムの活用を拡大しました。

表彰式典では、佐々木理事長より彰状、賞牌ならびに賞金（各グループ 1,000 万円ずつ）が、お 1 人ずつに授与されました。贈呈式に引き続き、受賞者の方々による受賞講演が行われ、その後、祝賀会が行われました。



受賞者の方々（左より、喜安博士夫妻、佐々木理事長、ヘネシー教授夫妻、パターソン教授夫妻）